

こくろう秋田

国鉄労働組合
秋田地方本部
(秋田市中通
7-2-21
018-832-3775)

発行責任者
瀬下 一司
編集責任者
佐藤 浩一

なくせ貧困と格差、 生かそう憲法、守ろう社会保障

2008年秋田県春闘討論集会開催



十二月十六日、生涯学習センタージョイナスを会場に、県内各地から約七〇名(国労から六名)が参加し、「2008年春闘討論集会・春闘懇総会」が開催されました。

昨年までは「総会」と「春闘討論集会」とは別々に開催していましたが、今年は一日の行程での開催となりました。

司会者(県国公近野議長、中通病院労組草皆副委員長)の開会挨拶の後、春闘懇代表世話人の一人である瀬下地本委員長が主催者代表挨拶を行いました。

瀬下委員長は「格差と貧困化が進行し、正規、非正規を問わずめちやくちやに働かされている。それだけに共同の条件も拡大しているともいえる。組織労働者が運動の核となって奮闘す

る構えでがんばろう」と訴えました。

小田川事務局長が講演

続いて、国民春闘共闘・全労連事務局長の小田川義和氏から『なくせ貧困、ストップ改憲! つくろう平和で公正な社会』をスローガンに国民春闘前進を』と題して「非正規労働者の貧困に目を向けたいと労働者全体の底上げにならないという認識が広がっている」「労働者・国民の苦しみ政府・財界の強行した構造改革によるものだということ鮮明になっている」「貧困と格差が深刻になっている現実と国民の運動で政治を動かすことができる条件が生まれている」という新たな状況に目を向け

国民諸階層との共同を」という内容で、2008春闘を巡る情勢と課題について提起がなされました。

午後からは約一時間にわたって「2007年度県春闘懇年次総会」を開催。2007年度経過及び会計報告等が報告承認され、2008年春闘方針が提起されました。

その後、参加者による討論が行われ、国労からは総合車両センター支部の高橋委員長が「JR不採用事件の早期解決をめぐる状況」と「春闘に向けた支部

の取り組みと決意」を述べました。

他の参加者からは以下のような発言がされました。(主な発言要旨)

米内沢病院の医師不足と赤字問題が深刻。人件費削減提案を労使交渉にのせたが、手当削減は阻止できなかった(医労連)

自治体職員の賃金は地場賃金の指数にも使われる。そういう意味からも職員からワーキングプアなくす重要性も。地域医療の充実については経営側と一致点も広がっている(自治労連)

地方最賃は上がったが、同時に格差も広がった。地域から音が聞こえ、見えるような運動展開したい(地域労連)

07春闘ではベアゼ口を打破できなかったが、パート社員の長期休暇獲得と正社員化獲得。現役と同じ扱いでの再雇用制度を実現した(北都銀行労組) 中央の医療法人

が作った介護施設が半年で閉鎖、賃金不払い分について組合を作って払わせることができた。医療における産別最賃獲得の運動をさらに強めたい。

企業内での闘いだけではどうしようもなくなっている。地域に出た闘いを(医労連)

国民との対話重視の運動を強化していきたい(国公労連)

人手不足にもかかわらず補充がなく、その上成果主義賃金の導入も狙っている(福祉・保育)

弘前でJR不採用事件早期解決を訴え

十二月三日、弘前市の中弘教育会館において中弘南黒地区労連主催「07秋季年末闘争」闘いの交流会が開催され、国労秋田地本から特別報告ということでJR不採用事件の訴えを行ってきました。

集会では福祉の職場を中心に、年末一時金獲得の闘いや退職金の突然の削減提案に対し、組合を結成して不当性と闘っている報告などが行われました。

この間、地区労連とは貨物承継特例延長の署名や五所川原駅新型券売機設置にかかわる自治体要請、一万人アピール署名などご協力を頂いてきた経過があります。

今回は「闘いの交流会」に合わせて瀬下委員長が闘いの現状報告とお願いを行ってきました。集会には前執行委員の笹嶋さんと弘前運輸区から二名の組合員が参加しました。今後連絡を取り合い、交流を深めていくことを確認してきました。